

Yamakado News Letter



5輪花芽を付けたササユリ開花 6/18



永原小全校山門学習 5/23



西浅井中1年自然学習 6/2 by Saji



レイカディア大保全活動 6/2 by Saji

老若男女、沢山の人々が保全活動や学習に来訪

5月23日の永原小学校全校山門学習（102+10名）に始まり、会員向け学習会（11+5名）、西浅井中学校1年の自然学習（34+4名）、レイカディア大OBの保全活動（10名）、西浅井中三年生の保全活動（36+5名）、岐阜市立青山中学校1年生の保全学習（138+12名）、引き継ぐ会の保全活動（8名）と、このひと月は老若男女、沢山の人々が保全活動や学習に来てくれました。延べにして375名。梅雨入り後も晴天が続いたこともあり、保全作業も大いに捗りました。西浅井中三年生の皆さんは学校行事としての保全活動はこれが最後となります。付き合いの長い子では小学4年生からこの森を通じで関わりを持ち、毎年の成長を見てきました。今後は進学したり、中には地域を離れていく子もいるでしょうが、私達の保全に対する気持ちを少しでも引き継いでくれたら嬉しいなあ、そんな気持ちで山を去る彼らを見送りました。



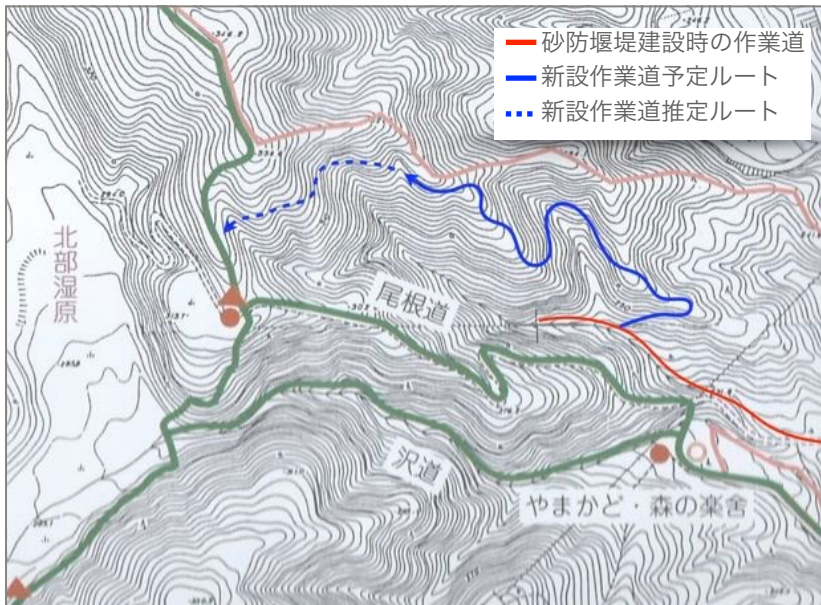
西浅井中3年保全活動 6/6



岐阜市立青山中学校1年保全活動 6/8



ミニ湿地再生 6/17 by Fujimoto.H



雑木の先を睨んでルート取り



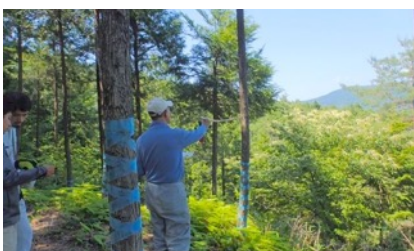
ヘアピンカーブでの最小半径を測量

林内作業道を開設するにあたり、事前の現場調査

既に新聞等で報道されていますが、今年は県との協働事業で作業道の開設を予定しています。これは近年深刻化する獣害に対して人々の肉体的負担が大きく、その対策としての事業となります。引き継ぐ会では獣害に対して防獣ネットの設置やパトロール、狩猟期の捕獲などで対応しています。その資材は全て手運び運搬です。防獣範囲は年々拡大していて、併せて積雪時のメンテナンスも増える傾向にあります。人力での対応に限界がきているのが実情です。車両が通行可能な道ができることで、作業負担の軽減と獣害対策の充実化が期待されています。また曳山の修理部材を確保したい大津祭保存会との、アカガシ林の育林保全の活動の取り組みも始まっていて、その活動への活用も期待されています。

ただ、この協働事業では外注による作業は対象とならず、道作りは主に引き継ぐ会が主体で行うのが条件となります。幸い長浜市が2015年から自伐型林業を推進する取り組みを行っており、その中で様々なフォーラムや講習会を開催していました。当会会員も複数名が市の主催する作業道作り講習会に参加していた経緯もあって、今回の作業道作りでも長浜市の協力が得られることとなりました。6月19日には長浜市北部振興局の土田氏、作業道指導者の清光林業（株）岡橋氏、それと岡橋氏の指導を受けて既に市内山林で作業道を作っている地域おこし協力隊3名が来訪。会員と共に現場を歩き、作業道の開設が可能なルートの検討をしました。

山門水源の森一帯は花崗岩地帯です。この花崗岩は大変脆い性質があり、作業道作りには難しい地質です。その岩盤を削って道を作るので、いかに壊れずメンテナンスしやすいかが課題となります。今回のルート検討では安易に谷筋にルートを付けない、尾根の左右にルートを振って雨水排水の分散を図る、また現地の植生から地中の水分濃度を推測して乾燥した場所を選ぶなど、幾つかの条件に合うルートを選定し、ポイント毎に立木にテープを巻いて印をしてみました。今後このルートに沿って道付け作業を行っていく予定です。



隣の尾根から道をつける尾根の形状や高低差などを目視で確認



ポイントにテープで印をつける



近くの既設作業道を見て、地質、植生、地下水などの情報を得る